

包括的なプロフィシエンシーを 向上するための教室内外の 学習リソースの相互活用

香港日本語教育研究会
2016年3月19日20日

外国語教育理論、 外国語教室内外における 言語／文化の境界を考える

プリンストン大学
佐藤慎司
ssato@princeton.edu

問題提起

1. 教室内外の学習リソース、コミュニケーションをする際のリソースについて考える
2. 「ことば」「言語」について様々な角度から考える

教室内外の学習リソース

包括的なプロフィシエンシーを向上するための教室内外の学習リソースにはどんなものがあるか？

- 道具
 - コンピューター、インターネット、ランゲージラボなど
 - よいものは**お金**を支払わなければならないことが多い
- 人
 - 教室内外のさまざまな日本人・日本語話者のコミュニティ・クラブ（提携校の学生、日本クラブ、ランゲージパートナー、家庭教師など）
 - もちつもたれつ、あるいは**お金**を支払って
 - 人がコミュニケーションをする際には**どんなリソース**を使っているのだろうか？

教室内外の学習リソース

包括的なプロフィシエンシーを向上するための教室内外の学習リソースにはどんなものがあるか？

- 人的リソース
 - 会話をしてくれる人
 - 知識や情報をしてくれる人
 - 見てくれる人
- 物的リソース
- 情報のリソース
 - 専門知識
 - 自分自身の経験
- 金銭的リソース
- 場のリソース

さまざまな言語使用

事例

- 趣味
 - 旅行、レストラン・ホテル探し、食事、買い物
 - コンピューターゲームフォーラム
 - アニメのファンフォーラム
- 仕事
 - 多国籍企業
 - 市場
- 言語学習
 - ホストファミリーとの会話
 - ランゲージエクスチェンジ

さまざまな言語使用

- 旅行（ホテル・レストラン探し，食事，買い物）

さまざまな言語使用：オンライン

- コンピューターゲームのフォーラム
- （世界中の）同じ興味を持つ人とつながる

テクノロジー時代のリテラシー

そのような場での言語使用は？(Williams 2009)

- 訂正はしない
- 試行錯誤を繰り返し素早く何が起きているのかを把握することが大切

→そのような場で出会う言語は「学校で習うことば」？標準語？

テクノロジー時代のリテラシー

- 自分の町を離れたことがない人でも趣味のオンラインのコミュニティで世界中の人とつながり，友達を作ることが可能
- リテラシー（言語活動）はそのオンライン上ですることも多い
- **そのような活動が，世界の諸言語のリテラシー（言語活動）の世界を形作っている**
 - 例：フォーラムなどで
 - ビデオゲームやコンピューターゲーム(Bennerstedt 2007)
 - マンガ・アニメ(Black 2007, Thomas 2007)

さまざまな言語使用：職場

久保田(2015)：アジアにおける日系企業駐在員の言語選択

- 中国
 - 日本語・中国語・英語（どれも「標準語」）が仕事内容，および個人の言語能力によって使い分けられていた
 - 漢字圏のため筆談が有効
- タイ
 - 話し言葉：職務，駐在期間，個人の言語学習体験などによって異なる
 - 読み書き：英語（タイ語の表記の難しさ），日本の本社とは日本語
- 韓国
 - 職場内：日本語
 - 韓国国内の出張：韓国語＋日本語通訳と英語

→仕事内容，相手，場所，個人の言語能力などにより程度は異なるが，様々なリソースが組み合わせられたり，使い分けられたりしている

さまざまな言語使用

ホストファミリーとの会話

ランゲージエクステンション

- スカイプで
- 対面式で

ことばとは？

1. 標準語や方言（日本語、広東語、英語、中国語など）
2. ジェスチャー
3. 笑顔
4. アイコンタクト
5. 音・音楽
6. 絵、造形表現

「マルチリンガル」コミュニティの共通点 (Canagarajah 2013)

- 言語は多様であるという意識
- インターアクションの多様性の中で交渉するのだという意志
- 違いに対してオープンな態度
- 意味を一緒に作っていきこうという忍耐
- 交渉の上決まった結果の受容
- 実践と批判的な自己の振り返りを通して学ぶ力

→言語（表現）の調整 Rhetorical attunement (Lorimer 2013)

言語(表現)の調整(Rhetorical attunement) (Lorimer 2013)

「マルチリンガル」コミュニティのみの現象か？

- ネットワーキングサイト
- オンラインコミュニケーション

→どのように「言語表現の調整」を行なっていくのか、何か傾向はあるのかなどを明らかにするような研究が必要

→このような調整法は教師が教えるよりも、実際に体験し習っていく中で教師が足場作り（スキップホルディング）していくというやり方のほうが有効では？

まとめ

- 狭義の言語だけでなくマルチモダルな要素（ゼスチャー、視線、写真と組み合わせる、フォントの大きさや色など）などどんどん混ぜている
- コミュニケーションの目的は何なのか？

• 言語能力は個人の中に存在するのか、言語能力とは何か？

- ことばとは何か？

参考文献

- Black, Rebecca (2008) Adolescents and Online Fan Fiction. London: Lang.
- Kern, Richard (2000) Literacy and Language Teaching. New York: Oxford University Press.
- Thomas, Angela (2007) Youth Online: Identity and Literacy in the Digital Age. New York: Lang.
- Williams, Bronwyn (2009) Shimmering Literacies. New York: Peter Lang.

言語教育研究におけるさまざまな概念

- コードスイッチング
- 中間言語
- (異文化) 接触場面
- 異文化コミュニケーション能力

コードスイッチング・コード切り替え (code switching)

Myers-Scott & Ury (1977)

- 同じ会話の中で異なる英語の種類を使い分けること
→ 2つ以上の、言語体系ないし言語変種の切り替えが行われること。

例

- E: Ummmmm, kind of kind of, like their accent's pretty good, because for Spanish if you speak in like, カタカナっぽく言ったら, it kind of sounds like Spanish だから (宮原温子, Mejiro Journal of Humanities 7, 239-254, 2011)

中間言語(interlanguage)

- 第二言語(外国語)の学習者が、その言語を学んでゆく過程で発する、目標言語とは様々な点で違った体系を持つ学習者に特徴的な言語のこと。

- 「今夜は牛肉です」を "Tonight is beef." とか
(⇒ "We'll have beef tonight")

「荷物は3個です」を "Baggage is three." とか
(⇒ "I have three pieces of baggage.")

村上春樹

『うずまき猫のみつけかた』

- 生活の中に個人的な小確幸を見出すためには、多かれ少なかれ自己規制みたいなものが必要とされる。たとえば我慢して激しく運動した後に飲むきりぎり冷えたビールみたいなもので「うーん、そうだ、これだ」と一人いてしまうような感興、それがなんである。そしてそういった小確幸の砂漠のようなものにすぎないと僕



(異文化) 接触場面(contact zone)

- 言語と文化を異にする個人と個人がコミュニケーションを行う場面

異文化コミュニケーション能力

- 文化的背景を異にする存在同士のコミュニケーションで、効率よく自分の考えを伝え、よい効果を生み出す能力

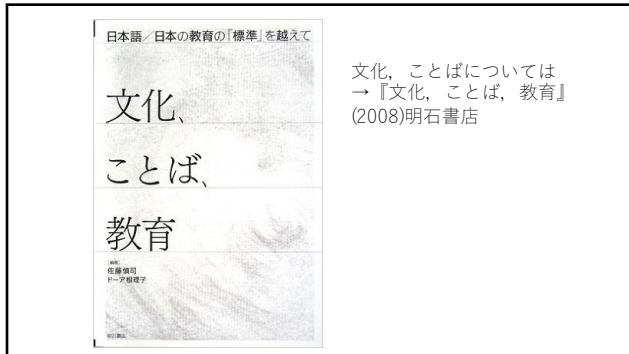
むすび： 言語教育研究におけるさまざまな概念

ある言語・文化と別の言語・文化の境界線が明確に引けるということが前提になっている場合が多い

- ある言語・文化と別の言語・文化の境界線は本当に明確にく引くことができるのか？

→ある言語・文化と別の言語・文化の境界線は、**どのような状況で(いつ)**、**どこで**、**だれが**、**誰に対して**、**どのように**く引くことができるのか。

- ○○語は、昔からそこにあったのか、作られたのか、いまもあるのか…



文化、ことばについては
→『文化、ことば、教育』
(2008)明石書店

言語政策：標準語の成立過程

- 通じる必要性の創出 (ドーア 2008)
 - 国民全員、言葉が通じあわなければならない
- 国民のアイデンティティ創出
 - 国民国家

事例

- 日本語
- 広東語

近代以前の言語使用：江戸時代のことば

- 口語
 - 階級ごとのことば
 - 武家言葉, 職人言葉, 農家ことばなど
- 方言
- 文語

地域・階級で通じなくて当然
→日本人は一つ、その中で言葉は
通じるべき



近代化と言語：日本語

- 標準語, 共通語の成立
 - 東京の教育ある人々のことば (山手ことば) を標準に
- 言語普及：メディアと教育
 - ラジオ
 - 学校
 - 国語・日本語教育の成立
 - 標準語教育
 - 植民地の日本語教育



広東語 (廣東話/广东话, 粵語/越語)

- 香港、マカオ、中国の広東・広西を中心とした地域の住民や出身者により話される言語の一種で、粵語 (えつご、英語 Yue dialect) ともいう。独立した言語という側面と、中国語の方言という側面をあわせもつ

香港

- ~1841年：清王朝時代
- 1842年~1941年：イギリス植民地時代 (前半)
- 1941年~1945年：日本統治時代
- 1945年~1997年：イギリス植民地時代 (後半)
- 1997年~：特別行政区時代

香港という場所

- 中国、イギリス、日本との関係
- 香港、「香港人」「香港語」というアイデンティティは誰かに認めてもらわなければならないものなのか？

まとめ

- 近代のような言語観が生まれてから200年程度。
- 国家という枠組みの限界，国家にできることの限界

参考文献

- イヨンスク(1996)『「国語」という思想』岩波書店。
 酒井直樹(1996)『死産される日本語日本人』新曜社。
 ドーア根理子(2008)「通じること」の必要性について『文化、ことば、教育』明石書店
 ましこひでのり(2002)『ことばと政治の社会学』三元社。
 ましこひでのり(2003)『イデオロギーとしての日本』三元社。
 安田敏朗(2003)『脱日本語への視座』三元社。
 Gluck, Carol.(1989) *Japan's Modern Myths: Ideology in the Late Meiji Period.* Princeton, NJ: Princeton University Press.
 Gottlieb, Nanette. (2005) *Language and Society in Japan* Cambridge: Cambridge University Press.
 Seeley, Christopher. (1991) *A History of Writing in Japan.* New York: E.J. Brill.

通じる必要性？

(ドーア2008)

通じる必要性の創出 (ドーア 2008)

- 国民全員，言葉が通じあわなければいけない

通じる必要性？：将来への展望

(ドーア2008)

1. 標準語しか知らない人々に，少数派の非標準言語変種を教え，どうしてある変種が標準となり他の変種が非標準となったかと，そのことの言語集団間の関係への影響についての「言語に関する批判的認識」を促す
2. ある言語を話す時，話しを通じさせたい人に通じればよいのであって，その言語の諸変種を話す全員に通じなくてもいいという考え方を広める
3. 「完全に通じなくてもいい」と言える環境を作る

通じる必要性？

(ドーア2008)

3. 「完全に通じなくてもいい」と言える環境を作る
 - 集団間の抑圧，恨み，不信感のないような言語以前の社会の構造が必要
 - 国民とはお互いを完全に理解しあえる同質の人間でなくてもいいと捉え直す
 - 言葉が通じることに頼らないコミュニケーションをしていく

社会・コミュニティ参加をめざすことばの教育

- もし言語・文化の境界線を前提としなくなった場合、これからのことば教育はどんなものになるのか。
- 教師、学習者は規範的な言語・文化にどうかかわっていったらよいのか。

→ 社会・コミュニティ参加をめざすことばの教育(佐藤・熊谷2011)

社会参加をめざすことばの教育 (佐藤&熊谷 2011)

ことばの教育の目標は

- 標準語や文化的知識を教えるだけでなく、
- **社会・コミュニティ参加をめざすことである。**
 - 社会・コミュニティ
 - 包括的な全体社会、地域社会、グループ、仲間（オンラインでのコミュニティなど境界線のはっきりしないもの、流動的なもの）などすべてを含む
 - コミュニティ
 - いくつかのコミュニティに所属、その間を行き来、あるいは、新しいコミュニティを作ることも可能

「社会・コミュニティに参加をする」とは？

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 自分の既に所属している（したい）コミュニティに関する様々な規則（約束事、習慣、考え方、行動パターン）などを学ぶ | 2. その規則、規範を批判的に分析する |
| 社会・コミュニティに参加する | |
| 3. コミュニティの中で議論をしながら、つまり、説得したりされながら、いいと思うものは受け継ぎ、変えた方がいいと思うものは変えて行くための努力をする | 4. メンバーの一人として責任を担う |

社会参加をめざすことばの教育： 5つのキーポイント(佐藤&熊谷 2011)



社会参加をめざす日本語教育 (佐藤・熊谷2011)



まとめ：ことばや文化の議論と多様性

- ことばの教育における、ことばや文化の議論では、なぜ国家や民族をベースにした違いがいつも強調されるのか？
- 言語文化の「多様性」をどう考えるのか？
→何が多様で、何が多様でないのかは政治的？

→クレオール、ハイブリッド・雑種性(細川 2006)

→メトロリಂಗアリズム(Pennycook & Otsuji 2015)

まとめ：ことばの教育はどこへ？

多様性を認めるだけでなく、
複数の人間が協力して（ときには説得しあって）何かを成し遂げていくような活動

を取り込む必要性

- 活動に応じて自分の持っている、あるいは、その場にある（ことばを含む）リソースをうまく活用していけるように
- 標準語や国家語(national language)はそのリソースの「一つ」「一部分」

まとめ：ことばとは？

- (狭義の「言語学的」) 言語
 - マルチモード
 - トーン、表情、ボディランゲージ、写真・ビデオなどの使用、フォントの色、大きさ、スペースをどう使うかなど
 - アート、音楽などは？
- 佐藤・佐伯(執筆中)『かかわることば、かかわらない言葉(仮題)』

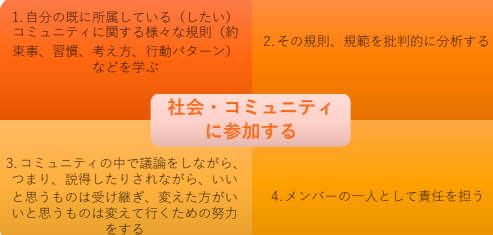
まとめ：

教室内外のリソースを活用するためには

いつも活用だけするという姿勢でよいか？

- もちつもたれつ→相手に対して自分は何がしてあげられるのか(貢献)という視点

「社会・コミュニティに参加をする」とは？



むすび

社会・コミュニティ参加をめざすとは？

- メンバーの一人として責任を担う

→ **どんな社会・コミュニティを作りたいのか？**

コミュニティの中に存在する多様性を認め、尊重する

教育・人間関係における根本的な問い

- 一人一人違う、個性をもつ人間を、どうやって同じように、平等に扱うか(あるいは、その人たちに平等に扱っていると感じてもらうか)
- **真からその人を思っているのだという愛情**でしか解決できないのではないか？

ワークショップ
教室内外のリソースの相互活用：
社会コミュニティ参加をめざす
ことばの教育(実践編)

プリンストン大学

- 学生数： 8800人
 - 学部生： 5400人
 - 大学院生： 2700人
- 教授・講師数： 1200人
- 学費 41,820ドル(寮費込み54,865ドル)
- 日本語学習者 100人
- レベル 5レベル(来年度から6レベル)
- 日本語講師 5人



プリンストンイン石川 50人(2レベル)

プリンストン日本語教育フォーラム(参加者100名程度)

日本語プログラムのカリキュラム

コース	到達目標 (ACTFL)	時間数 講師	教材	プロジェクト
JPN 101/102	S&L: Novice High W: Intermediate Low R: Intermediate Mid	50分x5 3-4人	なかま	ビデオ、発音指導、 (ブログ)
JPN 105/107	S&L: Intermediate Low W: Intermediate Mid R: Intermediate High	50分x5 2人	なかま 上級へのとびら	Facebook・デジ タルストーリーテ リング
JPN 301/302	S: Intermediate Mid L&W: Intermediate High R: Advanced Low	80分x3 2人	上級へのとびら 千と千尋の神隠し 日本語生中継	Facebook・デジ タルストーリーテ リング
JPN 305/306	S: Intermediate High L&W: Advanced Low R: Advanced Mid	80分x2 1-2人	生教材	コミュニティ参加 型プロジェクト
JPN/EAS 401/402	S: Advanced Low-Mid L&W: Advanced Mid R: Advanced High	80分x2 1人	生教材	個別指導

社会参加をめざすことばの教育
(佐藤&熊谷 2011)

ことばの教育の目標は

- 標準語や文化的知識を教えることだけでなく、
- 社会・コミュニティ参加をめざすことである。

ブログ活動

目的

- 1.日本語学習に関しての気持ち（喜び、大変さ、オンラインツールの紹介など）をシェアする場
- 2.教室外の人と交流する場
- 3.自己を振り返る場

- 自己表現、コミュニケーション重視（教師は基本的に訂正は行わない）
- ときには言語に焦点もあてた個別指導も

テレビプロジェクト

目的

1. **自分たちの伝えたいこと**を日本語のわかる人たち（日本語話者、日本語学習者など）に伝える
 2. 日本語だけでなく、**映像、ゼスチャー、声のトーン、大きさなど**と**組み合わせ**て自分たちのメッセージを伝える
- ターゲットとする視聴者
- **日本語話者、日本語学習者、クラスメート、講師**

テレビプロジェクト

手順

1. 「いいテレビ番組とは何か」みなで考え、**評価基準**を作る
2. 2~3人のグループでテレビ番組の**企画書と下書き**を作成する
3. 下書きにさまざまな人たち（講師、TA、提携校の学生など）からコメントをもらい、**スクリプトを作成し直す**
4. コメントを基にスクリプトを直し、講師、TAと発音指導などを受ける
6. ビデオ配信を行う（クラスメートはコメントを書き込む）
7. **最終評価**（自己相互評価、プロジェクト評価）を行う

社会参加をめざすことばの教育
(佐藤&熊谷 2011)

ことばの教育の目標は

- 標準語や文化的知識を教えることだけでなく、
- 社会・コミュニティ参加をめざすことである。

「社会・コミュニティに参加をする」とは？

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 自分の既に所属している（したい）コミュニティに関する様々な規則（約束事、習慣、考え方、行動パターン）などを学ぶ | 2. その規則、規範を批判的に分析する |
| 社会・コミュニティに参加する | |
| 3. コミュニティの中で議論をしながら、つまり、説得したりされながら、いいと思うものは受け継ぎ、変えた方がいいと思うものは変えて行くための努力をする | 4. メンバーの一人として責任を担う |

社会参加をめざすことばの教育： 5つのキーポイント(佐藤&熊谷 2011)



1. 自己実現

- 個人の目的を達成していけるような（自己実現の）機会を与える
 - 学習者が以下のような問いを考える機会を活動やカリキュラムの中に取り込む
 - 日本語を使って何がしたいのか？
 - どんな日本語話者になりたいのか？
 - 日本語を使ってだれとコミュニケーションしたいのか？ どうしてコミュニケーションしたいのか？
 - 学習者が自分の学習に責任を持てるように
 - 自己実現のために短期、長期学習目標を設定する
 - 自律的な(autonomous)学習者

2. 興味

- 学習者に個人の興味を追求する機会を提供する
- 学習者主体
→プロジェクトベースの言語学習 (e.g. Beckett & Miller 2006)

3. 内容

- 言語と内容を分けて考える見方を再考する
 - 初級レベルは「言語」、上級レベルは「内容」に焦点を当てるという考えを見直す
 - 「内容」とは何なのか？
- 初級レベルから「内容」にも焦点を当てカリキュラムに組み込む
 - 内容重視の言語教育(Content-based language learning (e.g., Brinton, Snow, & Wesche 1989))
 - 内容重視の批判的言語教育（佐藤・高見・神吉・熊谷 (2015)）

4. 文脈

- 文脈により異なる言語使用、モードの違いを意識する
 - 言語使用
 - ひらがな、カタカナ、漢字の使用の仕方、スタイル、語彙の選択など
 - モード
 - トーン、表情、ボディランゲージ、写真・ビデオなどの使用、フォントの色、大きさ、スペースをどう使うかなど
- メッセージや自分の言いたいことを伝えるために、適切な言語使用だけでなく、どのモードが一番適切なのかを考える
→マルチレタラシーズ (New London Group 1996)

5. 多様性

- コミュニティーの中に存在する多様性を認め、尊重する
 - 多様性： 人の多様性、考え方の多様性、言語の多様性、言語使用の仕方の多様性など

静的、ステレオタイプの、一枚岩的、本質化された言語、文化、社会概念などを疑問視する

社会参加をめざす日本語教育 (佐藤・熊谷2011)

ステップ

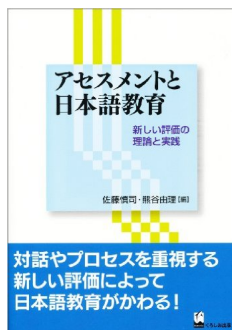


社会参加をめざすことばの教育 (佐藤&熊谷 2011)

- プログラム、カリキュラムの全体の根底に流れる教育理念プロジェクト
- 一つのプロジェクトですべてのステップが入ってなくてもいい
 - 初級 → 媒介語の効果的な活用
 - ブログプロジェクト
 - テレビプロジェクト
 - カタカナプロジェクト
 - 中・上級
 - 社会に関わろうプロジェクト
 - 見つめ直そう、自分の将来と日本語プロジェクト (コミュニティ参加型プロジェクト)

プロジェクトの原則：コミュニティ評価

1. 作品などは**原則公開**する
 - 視聴者はだれなのかを明確にする + いろいろな人に見てもらえる可能性
 - 公開する責任
 2. **関係者からコメント (評価) をもらい、作り直していく**
 - 自分だけでなく、「コミュニティ」のよいと思っているものも反映
 - コメントする責任
 3. **評価基準はみなで作り、みなで評価する**
 - 常にコミュニティメンバーから見られているという意識
 - 評価する責任
- 『アセスメントと日本語教育』 (佐藤・熊谷 2010)



アセスメント・評価についての詳細
→ 『アセスメントと日本語教育』(2011)くろしお出版

カタカナプロジェクト

目的

1. カタカナの様々な使用例を集め、**分析・考察**する。
2. さまざまな用法のカタカナを**使用**してみる。
3. 教科書にどのようにカタカナに関する説明がなされているかを見る。また、なぜそのような説明になっているのかについて**批判的に考える**。

カタカナプロジェクト

手順

1. 複数の日本語の教科書の中でカタカナの使用に関してどのように説明がなされているのかを比較する。
2. 本や雑誌などの資料から実際に使われているカタカナを集める。
3. 集めたカタカナをその使用法によりどのようにカテゴリー化できるか考えてみる。また、その言葉をひらがなや漢字ではなく、カタカナで書くことにどのような目的、効果があるのか考える。
4. 1で見た教科書のカタカナに関する説明がなぜそのようななされているのかを考える。

カタカナプロジェクト

5. 3と4に対する分析、意見を自分のブログに書き込む。
6. ブログ上でクラスメート、日本語科のTA、中上級の日本語クラスの学生、日本の提携校の学生（日本人学生、日本に留学している学生）などと5の分析に関して意見交換を行う。
7. いくつかの学生の分析調査をクラスで取り上げ、ディスカッションを行う。
8. 日本語におけるひらがな、カタカナ、漢字の使われ方の歴史について簡単に学習する。
9. カタカナを使って俳句、川柳、漫画、ショートストーリーなどの作品を作るにあたって、どうしたらいい作品を作ることができるかをグループで話し合う。このディスカッションに基づいて、みなで最終作品を評価するための評価カテゴリーを決める。

カタカナプロジェクト

10. カタカナを用いて俳句、川柳、漫画、ショートストーリーなどの文芸作品を作る。
11. クラスメート、日本語科のTAと作品について特にカタカナ使用に焦点を当てコメントの交換を行う。
12. クラスメートからもらったコメントに基づいて作品を作り直す。
13. 作り直した作品をブログに載せる。
14. 5で決めた評価基準に基づいて、自分の作品とクラスメートの作品を評価する。

カタカナプロジェクト

評価カテゴリー

1. 感情・気持ち（心に訴えかけるもの）
2. 情報（メッセージ）
3. 美的感覚（美しさ）
4. 想像力（興味）
5. 他者への配慮（読みやすさ）
6. 言語

ことばとは？

1. 標準語（日本語、英語、中国語、広東語？）など
2. 方言（関西弁、広東語？など）
3. ジェスチャー
4. 笑顔
5. アイコンタクト
6. 音・音楽
7. 絵、造形表現



- 社会参加をめざす日本語教育の理念
- ブログ、ビデオ、カタカナプロジェクトの詳細
→『社会参加をめざす日本語教育』（2011）ひつじ書房

社会に関わろうプロジェクト

目的：

社会問題について日本語を使って

- 見たり、読んだり、聞いたりして情報を集める。
- 自分の意見を言う。
- 問題を解決するために、自分に何ができるか考え、実行する。

社会に関わろうプロジェクト

手順

1. プロジェクトの社会問題を選ぶ。その際にどうしてその社会問題を選んだか／どうしてそれが大切なのか考える。
2. アウトラインを提出する。
 - コメントをする人
 - クラスメート／担当講師・TA

アウトラインの問い

1. 興味のある社会問題、世界の問題は？
2. あなたとその社会問題の関係、どうしてその問題に興味があるのか、大切なのか？（オリジナリティー）
3. どんなメッセージを伝えたいか？日本語で伝えることの意義は？
4. 伝えたいメッセージを伝えるためには、どんな媒体がいいと思うか？それはどうしてか？
5. 取り上げた社会問題を解決するにはどうしたらいいと思うか？日本語を使ってできることは何か。

社会に関わろうプロジェクト

実際に中級学習者が選んだトピックの例

- 海洋汚染（ビデオ）
- 絶滅危惧種（テキスト+写真）
- タバコの害と法律（テキスト）
- 子犬工場（Puppy Mill）（テキスト+写真）
- 現代社会における伝統文化（テキスト+写真：2人）
- 医療制度（テキスト+写真）

社会に関わろうプロジェクト

手順

3. どうしてピア評価が大切なのか考える。
4. 最終作品（ビデオ、ブログなど）をどう評価するか話し合う。（評価対象になるもの）
 - a. 作品
 - b. 作品を見てもらえるようにどのような努力をしたか。実際にどれくらいの人からコメントをもらったか。
 - c. 問題解決のために実際にどんな試みを行ったか。

社会に関わろうプロジェクト

プロジェクト評価者

- 担当講師
- TA
- 学習者自身
- 日本の提携校の学生

社会に関わろうプロジェクト

評価カテゴリー

1. 日本語
 - 文法、漢字など
2. デザイン
 - 写真、デザインなど
3. 内容
 - テーマ、構成、流れ、おもしろいか、読みやすいか、新しい情報があるか、よく説明しているか、情報は正しいか、メッセージがあるかなど
4. 読み手の意識
 - ブログを読んだ後にいろいろ考えさせられるようなことが書いてあるか、読者を取り込むように書かれているか、読み手のメリットは何かなど
5. オリジナリティーと創造性
6. 他人からのコメントの受け入れ

社会に関わろうプロジェクト

手順

5. 作品の下書き提出（個人面談）
6. ブログに最終作品を公開
7. どうしたら見てもらいたい人に自分の作品を見てもらえるか考え、それを実行
8. ブログなどで意見交換を行い、問題解決のためにできることを実際に行う
9. 最終評価を行う

エリザベス（下書きへのコメント）

解決策に関するもの（TAと）

- もし、ベジタリアンになる以外の方法があれば知りたいです。（MI）
- やさしい食べられない人たちはどうしたらいいでしょうか？せまいターゲットにしばられず、もう少し大きい視野で、みんなができることを考えてみてください。（KS）

エリザベス（解決策）

1. 政府にクルーズ船の尿処理おさえるように頼む
2. ごみを海に捨てないようにする
3. 省エネと節水をする（古い機械を捨て、新しい省エネのを買う）
4. ベジタリアンになる（省エネをしたり、汚染をへらせるから）

エリザベス（視聴者からのコメント）

ベジタリアンになることが、海洋汚染を防ぐこと（環境保護）につながるという点は、初めて聞きましたから驚きました。確かに、お肉を食べるために家畜を育て、食肉加工をして、さらに調理をするとたくさんのエネルギーを使うことになりますよね。ちょっと反論をすると…今は野菜や果物を育てるにも、一年中収穫できるように人間がいろいろなことをしていますね。アメリカはどうかわかりませんが、日本では暖房を入れたりしていると聞いたことがあります。水もたくさん使いますね。ですから、必ずしもベジタリアンになることがエコにつながるとは私は思わないんです。
… (hulagirl April 20, 2009 1:17 PM)

エリザベス （ブログでのコメントへの返答）

- アメリカではたいてい野菜や果物を育てるのに暖房は使われません。でも、電力を使っても、としゃほどものを使いません。家畜を育てるために、エネルギーは言うまでもなく、むぎがたくさん使われています。むぎはおなかですいた人にあげられるかもしれません。（エリザベス April 20, 2009 2:18 PM）

社会参加をめざす日本語教育 (佐藤・熊谷2011)

ステップ



見つめ直そう自分の将来と日本語プロジェクト

目的

1. 日本語と自分の将来の見直し

- 自分がなぜ日本語を勉強しているのか、日本語で何がしたいのか、何ができるようになりたいのか、将来何がしたいか（仕事、趣味など）、どんな人間になりたいかなどをよく考える

2. 参加してくれる人・グループ・コミュニティ

- このプロジェクトに参加してくれる人々に何か利益があるか、どうやってその人たちの役に立つかを考える

3. 自分の日本語

- 自分の日本語を振り返って、今の自分には何が足りないのか、これから自分の日本語をどう伸ばしていきたいかを考える

見つめ直そう自分の将来と日本語プロジェクト

手順

1. 以下の3つの目標を設定する。

1. 自分の将来
2. 所属している（したい）コミュニティへの貢献
3. 日本語能力

2. 自分の持っているものを最大限に活用できるようなコミュニティを探し、関わり、何か少しでも貢献できるように活動を行う。

3. クラスメイトや講師と定期的に会い、プロジェクトの現状、問題点などを相談する。

見つめ直そう自分の将来と日本語プロジェクト

実際に上級学習者選んだ活動（例）

- **ランゲージパートナー**
 - 日本語と英語（日本人留学生、交換研究者の配偶者）
 - 日本語と韓国語（日本語上級の韓国人学生、昔のホストファミリー）
- **専門、趣味に関する意見交換**
 - 東アジアの政治（日本人留学生）
 - 動物愛護問題（図書館員、日本人留学生）
 - 日本の伝統音楽（昔のホストファミリー、日本の音楽家）
- **コミュニティ参加**
 - 絵本作成と読み聞かせ（高校生、お話し会）
 - コミュニティの日本語学校でのTA
 - 初級レベルの学生のための勉強会開催

見つめ直そう自分の将来と日本語プロジェクト

評価

1. Can Do Statement
2. 講師との個人面談
3. 中間レポート
4. 期末レポート&スピーチ

リー

- 日本語学習の楽しさ、科学学習のたのしさを伝えたい
- 活動：絵本作ったり読んだりする
 - 近隣高校の高校生と絵本を作り、コミュニティの日本語お話し会でその本を読む
 - 自分で電気工学に関するインターネット記事を読む
 - 自分の専攻である科学に興味を持ってもらえるように科学に関係のある絵本を読む

1. プロジェクトの内容について

- 他の日本語の学生と一緒に絵本を作ることが出来る 3
- 日本語を勉強している理由などについて話すことが出来る 3
- 自分が作成した計画を実現できるように他の人と協力する 3

2. コミュニティーへの貢献

- ○○○図書館のおはなし会で子供に日本語で絵本を読むことが出来る 3
- 完成した絵本を皆に見せて、日本や日本語の面白さを伝えることが出来る 2
- 大学で日本語を勉強することについて、高校生からの質問に答えることが出来る 3

3. 日本語力

- 前より自然に日本語で話すことが出来る 2
- 企画を日本語で他の人が分かるように説明できる 3
- メールを書く時、失礼じゃない日本語で書くことが出来る 3

コミュニティからのコメント

お話し会への影響

- リーさんの活動のお陰で、**コミュニティに根付いた活動**をより積極的に考えられる様になりました
- 図書館の日本語本を充実するため、**金銭的援助**も優先的にして頂ける様になりました

子どもたちへの影響

- **若い方の参加**はそれ自体が、もう子供達に良い影響を与えていると思います

リー：学期末スピーチの原稿

そのプロジェクトの絵本を完成している時に、多くの困難に直面しました。パズル好きな私は、子供のようのままで大学に入ってきました。人生がパズルばかりのゲームだったらいいなあと思っていました。でも、残念ながら、それはただの夢です。現実ではありません。**人生は気楽なゲームではないので、責任ということが存在します。私はその責任と全然関わりたくありませんでした。**失敗を恐れたから、いつも他の人の後ろに隠れて、決して指導的な地位に就きませんでした。そして、自分をがっかりさせないように、目標や期待を低く設定しました。

リー：学期末スピーチの原稿

でも、**いつも安全な壁の中に閉じこもっていたら、前に進むことが出来ません。**それが分かって、長年の癖はそんなに簡単に直せるものではありません。だから、今年の絵本を作って読むプロジェクトをすることに決めました。私一人だけではなく、他の人も関わっているから、途中でとめることが出来なくなりました。**逃げ道を封じて、絶対最後まで行くと決心しました。**(中略)責任と共に来る心配やプレッシャーのために、大変になりましたが、周りを前より注意したので、色々な今まで気づかなかったことを始めて気付きました。新しい面白そうなことを発見して、私が知っている世界がもう少し広がりました。

ディスカッション+報告

A. 先生の方

「社会・コミュニティ参加をめざす」ような活動を実際に行っています(いました)か?

1. 「はい」と答えられた方
 - どんな活動をしています(しました)か?
 - 今回のトークを聞いて、どんなことを変えてみたいと思いましたか?
 - どんなところがうまくいって、どんなところがうまくいっていませんか? どう改善したいと思っていますか?
2. 「いいえ」と答えられた方
 - どんな活動をしてみたいと思いますか?

B. 学生の方

- どんな「社会・コミュニティ参加をめざす」活動なら参加してみたいですか?
- ディスカッション後、それぞれのグループで1つ事例をご報告いただければと思います。

カリキュラム、プロジェクト設計における今後の課題

現在の私の課題

1. いろいろあるリソースの一つとして日本語を用いるような社会・コミュニティ参加の活動をどう現在のカリキュラムに取り込んでいくか

言語コミュニティの問題点

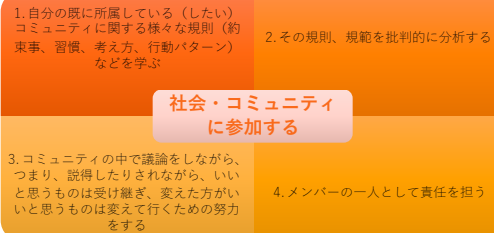
- 日本語や〇〇語に限定することでその〇〇語を使えない人はそのコミュニティに参加できない
- 〇〇語に限定せずに「ことば」と広く捉えることで全ての人をも取り込んでいけるコミュニティの形成は可能なのでは？

現在の私の課題

2. ある事象を批判的に分析することで、

- 個人は、ただ文化や社会や制度から影響を受けているだけでなく、個人の行為が同時に文化や社会や制度に影響も与えている、つまり、相互作用のプロセスの中で両者が変容している、
- 自分がしていることすべてが文化や社会や制度の構築に影響を与えている
- **自分も社会、文化、制度を作っているのだ**という視点をどう学習者と積極的に確認していくことができるか

「社会・コミュニティに参加をする」とは？



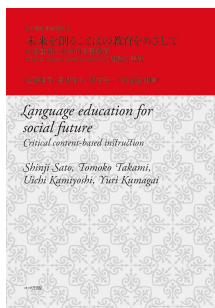
むすび

社会・コミュニティ参加をめざすとは？

- メンバーの一人として責任を担う
- **どんな社会・コミュニティを作っていきたいのか？**

社会・コミュニティ参加をめざすことばの教育

- **だれが何をめざすのか？**
 - 教師が、学習者に絶えず批判的な眼差しで物事を分析できるようにめざす
 - 教師&学習者が、その教育過程を通して、自分たちの生きる未来、そして、コミュニティの未来を、共に創造していくことをめざす



『未来をつくることばの教育をめざして：内容重視の批判的言語教育(Critical Content Based Instruction: CCBi)』(2015)ココ出版

謝辞

- 社会・コミュニティ参加をめざす日本語教育
 - 熊谷由理
- 社会に関わろうプロジェクト
 - 熊谷由理、縷織恵子、西俣（深井）美由紀
- 見つめ直そう自分の将来と日本語プロジェクト
 - 柴田智子

参考文献：社会参加をめざすことばの教育

- 佐藤・ドーア(2008)『文化、ことば、教育』明石書店
 佐藤・熊谷(2010)『アセスメントと日本語教育』くろしお出版
 佐藤・熊谷(2011)『社会参加をめざす日本語教育』ひつじ書房
 佐藤・熊谷(2013)『異文化コミュニケーションを問う』ココ出版
 西俣・熊谷・佐藤(執筆中)『社会参加をめざす日本語教育：実践編(仮題)』ココ出版
 Sato, S. & Doerr, N. (2014). Rethinking Language and Culture in Japanese Education. Clevendon: Multilingual Matters.
 Konoeda, K., Kumagai, Y., Nishimata, M. & Sato, S. (2015) Fostering Multimodal Literacy and Critical Multiliteracies: Japanese language learners' podcasting project. Multiliteracies in World Language Education. London: Routledge.
 Sato, S. (2009). Communication as Intersubjective Activity: When Native/Non-Native Speaker's Identity Appears in Computer-Mediated Communication. In Native Speaker Concept: Ethnographic Investigations of Native Speaker Effects. Edited by Neriko Doerr. New York: Mouton de Gruyter.

参考文献：ことばの教育はどこへ？

- Canagarajah, S. (2015). Translingual Practice. Routledge.
 Wei, L. & Garcia O. (2014). Translanguaging. Palgrave Pivot.
 Pennycook, A. & Otsuji, E. (2015). Metrolingualism. Routledge.
 Makoni, S. & Pennycook, A. (2012). Disinventing and Reconstituting Languages. Multilingual Matters.
 New London Group (1996). A Pedagogy of Multiliteracies. Harvard Educational Review 66 (1), 66-92.
 あべやすし (2015). 『ことばのバリアフリー』生活書院
 宇都宮裕章 (2011). 『新ことば教育論』風間書房
 佐藤・高見・神吉・熊谷 (2015) 『未来を創ることばの教育をめざして：内容重視の批判的日本語教育』ココ出版
 佐藤・佐伯 (執筆中). 『かかわることば、かかわらない言葉』東京大学出版会